

Ⅱ. ボランティア調査

新入生のボランティア意識 — 「新入生ボランティア活動アンケート」から

1. 調査の目的と概要

ボランティアセンターでは、新入生のボランティアへの意識や活動の意向を明らかにすることを目的として毎年4月新入生オリエンテーション時にボランティア活動に関するアンケート調査を実施している。2001年度に開始した本調査は、2012年度で12回目を迎えた。年度ごとに調査項目に多少の見直しはあるものの、基本的には同じ質問項目を用いてきた。

2012年度は2,816名の新入生から回答を得ることができた。前年度の回答者数は2,729名で、2010年度(2,405名)、2008年度(2,653名)、2009年度(2,729名)と過去5年間でもっとも回答数が多かった。回答数が最も多かったのが法律学科の319名(11.3%)、さらに社会学科256名(9.1%)、経済学科238名(8.5%)と続いている。

2. 調査結果

(1) 大学入学以前のボランティア活動経験について

大学入学以前のボランティア活動経験について尋ねたところ、経験有りとの回答が39.8%で、経験無しとの回答は60.4%だった。活動経験者の割合は、2011年(43.3%)、2010年(47.2%)、2009年(50.3%)と、この4年間は減少傾向にある。

(2) 大学時代にボランティア活動に参加したいか

ボランティア活動経験者が減少する一方、今年度の参加希望者の割合は66.7%でボランティア活動を希望しない者の割合は32.6%だった。前年2011年度のボランティア活動参加希望者70.2%を下回り、希望しない者は29.6%を上回っていた。しかし、活動参加者の割合は、2010年(60.4%)、2009年(62.6%)と比較すれば、比較的高い率を保っている。

次に参加希望者のみに限定して、ボランティア活動に参加したい理由について尋ねたところ、例年同様、「新しい出会いや経験を得たい(51.6%)」「ものの見方や考え方を広めたい(47.9%)」が高い割合を示していた。一方、「地域や人のために役立ちたい」が2011年度(41.7%)は前年比で7ポイントほど高い値を示していたが、2012年度は4.2ポイント低下し37.7%となった。一方、ボランティア活動に参加を希望しない学生を対象に参加を希望しない理由を尋ねたところ、「時間がない37.7%(前年度42.3%)」「関心がない27.5%(前年度27.1%)」「きっかけがない26.4%(前年度27.2%)」が上位を占めていた。この3項目は例年上位を占めているが、「関心がない」以外は、参加希望しない理由として割合が低下しており、このことは、ボランティア活動参加のきっかけをどのように提供するか、時間の調整についての事例や経験を上級生から聴くなど、工夫しだいで、ボランティ

参加者が増える可能性があると言えるだろう。

(3) 関心があるボランティア活動について

関心があるボランティア活動分野を複数回答で尋ねたところ、「国際 19%（前年度 17.5%）」「環境 14.2%（前年度 14.0%）」「まちづくり 13.8%（前年度 14.0%）」「子ども 13.6%（前年度 12.9%）」であった。上位4分野に回答した者のみを対象とした活動内容別集計では、「国際」と回答した者のみを対象として活動内容を設問したところ「異文化交流（68.8%）」「国際協力（56.1%）」が多く、「環境」では「環境保護（37.2%）」「ゴミ・リサイクル（35.6%）」が上位であった。また、「まちづくり」は、「祭り・イベント（76.5%）」「災害（26.3%）」「地域おこし（18.6%）」が上位であった。「災害」は2010年の14.4%から2011年に11.8ポイント増加し26.2%、今年度は26.3%とさらに0.1ポイント増加しており、東日本大震災の影響をみることができる。

(4) ボランティア活動を始めるにあたっての心配事

複数回答にて尋ねたところ、「自分にできるか（45.6%、前年度比0.9ポイント低下）」「役に立てるか（30.7%、前年度比3.9ポイント低下）」「相手とうまく接することができるか（29.7%、2.8ポイント上昇）」が上位を占めていた。東日本大震災における、あまりに広範囲にわたる甚大な被害を目にした時、本当に自分にできるのか、役に立てるのか、不安に感じていたことが示唆される。

(5) ボランティアセンターおよび1 Day for Othersの認知度

ボランティアセンターの存在を認知していた新入生の割合は60.0%であり、昨年の52.8%に比べて7.3ポイント増加した。一方、1 Day for Othersを認知していた新入生の割合は25.9%であった。1 Day for Othersについては、広報活動に力を入れる必要があることが示された。

3. 結論

ボランティアセンターにおけるボランティア活動は、通常の地域活動、国際ボランティア活動に加え、2011年3月11日に発生した東日本大震災とその後の被災地支援が2011年度に開始され、発展的に継続している。ボランティア活動経験がないが、新たに人間的成長の機会をボランティア活動に求める新入生は少なくないことや実施にあたっての不安なども本調査で明らかになった。入学前に、本学のボランティア活動に関する情報を提供する広報活動は喫緊の課題である。（齋藤）